

ウエルネス木村(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 3 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870800123
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会
事業所名	ウエルネス木村
所在地	福井県あわら市自由ヶ丘2丁目15番23号 (電話) 0776-73-7788

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成19年2月20日	評価確定日	平成19年3月29日

【情報提供票より】 (19年 2月 9日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人、非常勤 人、常勤換算 11 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	6 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費等実費 円
敷金	有 (円)		○無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,300 円

(4)利用者の概要 (12月 31日 現在)

利用者数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	5	要介護2	10
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	1
年齢	平均 83.5 歳	最低 75 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人至捷会 木村病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームは、住宅地から少し離れた日中人通りの少ない新興住宅地域に建設された6階建施設の2階に2ユニット設置されている。入居者の暮らしは、ゆとりのある広い共用空間と個性的な居室による環境のもと、職員による一人ひとりの得意なことを役割として日常の暮らしに活かしていけるような取り組みにより支えられている。また、職員は常に入居者の側にいる機会を多く持つことを大切にし、お互いに支えあい馴染みの関係を深めているホームである。</p> <p>利用者・家族にとって心配ごとである健康面、重度になった時の暮らしは、グループである医療法人と社会福祉法人による医療施設と介護施設を複数有しており、日常の健康管理、リハビリ、終末期までの入居者の心身の状態に応じて、様々な相談や適切な対応ができる体制が整っている。</p> <p>近年地域との交流が少しずつ広がり、除々にグループホームの理解も深まっているが、今後、運営推進会議と関連づけた交流が拡大し、地域と行ったり来たりできる関係定着に向けた展開が多いに期待される。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、理念や共用空間の見直しや工夫が挙げられ、施設長、管理者がこれを真摯に受け止め、職員全体が改善計画を作成し評価を活用してきた。今回の外部評価において具体的な改善内容が確認できた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	前回の外部評価の結果を運営推進会議に報告し、特に改善課題について、参加者の意見を聞きながら改善計画に反映させ、実行し、自己評価を行っている。まだ改善途中であり、継続して検討していく姿勢が確認できた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	グループホームや認知症に関する正しい情報や理解を地域に広げて行くことを趣旨とし、運営推進会議が運営されている。地域代表者の参加が少なく、会議の趣旨をより多くの地域住民に知らしめようとする本来のあり方に基づけば、ようやくスタート地点に立った段階であろうと思われる。今後は地域を構成する消防・警察・商業関係者、区長、公民館長、老人会、婦人会、壮年会、青年会、子ども会等の代表者の積極的な参加を求め、地域における入居者の安心安全な暮らしの確保はもとより、情報の開示や説明責任等を果たすことでホームに対する信頼性・透明性を一層高めていただきたい。また、この会議の工夫した活用により地域との交流促進等相乗効果を発揮することで地域におけるホームの一層の発展が期待できる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	家族とは、面会時や「便り」等でコミュニケーションがとられ、意見・苦情、その他運営面での報告・連絡・相談に応じていく体制が整い、機能している。今後は、家族同士のつながりの強化、運営・介護計画への意見等の反映など家族の参画について、入居者・家族等皆の利益につながる、より積極的なホームの働きかけや工夫が望まれる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	重点項目②との関連もあるが、納涼祭や防災訓練での地域の関心も徐々に高まっている状態にあり、運営推進会議の効果的な運用と関連付けた取り組みに期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価 No.	自己 評価 No.	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I 理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念を見直し、誰もがより理解しやすい内容にしたいとの考えで、職員全員で新たに5項目からなる理念を定め、利用者を主体として支援する具体的な内容でつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時の唱和で日々理念を確認するとともに、フロア等には入居者とともに作成した布に縫った掲示物があり、目に付きやすく外部者等にわかりやすい工夫がなされている。職員には理念を実際の支援に反映するための心構えがあり、管理者は適宜話し合いの場を持ち、確認や修正をしながら取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのある施設周辺は、新興住宅地で少し離れているため、地域の人が日常的に付近を通ることの少ない立地条件であり、現在は地域との関わりは低調である。	○	周りの集落独自で行っていた納涼祭を施設敷地で行ったり、防災訓練時の区長の関心も高まってきており、徐々に地域とのつながりが広がっている。今後ともホームからの積極的で継続的な働きかけに期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員は前回の評価への取り組みを話し合い、改善事項であった共用空間のあり方や理念の見直しの実施について改善に向けた具体的な取り組みを行っている。	○	理念の見直しは先に記載のとおり実施されており、共用空間も利用者と一緒に製作したカレンダー、手作りの時計、役割分担を表示する掲示物、その他で生活感を出しているが、継続中とのことであるので今後とも一層の工夫に期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回、定期的を実施し、会議の趣旨について地域住民の理解や協力を得られるよう、ホームの目的や支援の取り組みの状況等の説明、前回の外部評価報告等を通じた意見交換が行なわれている。記録も確認できた。	○	会議録から会議への参加者が少しずつ減っている状態にあることであり、区長、公民館長、老人会、婦人会、子供の代表等への参加を要請し、また、平日の夜または土曜日の開催も検討するなど参加しやすい時間帯の設定も必要と思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時に民生委員、地域包括支援センターの担当が出席しているが、市担当の出席がなく、他の関わりでも市との連携は確認できない。	○	特に市担当は、指導監督の立場にあるだけでなく、事業の推進や運営等上の課題をとも解決するための重要な存在であり、会議への参加をはじめ日常的な関係づくりに向けたホーム側からの積極的なアプローチが望まれる。
		4 理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、定期的に個別発行している「便り」で利用者の暮らしぶり、健康状況、職員の異動その他の内容を伝えている。家族への連絡・報告の窓口は担当制を設け、面会時にも暮らしぶりや意見・要望を伺うこと、また、あまり面会に來れない家族には負担にならないよう配慮しながらコミュニケーションをとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時に意見、要望等を伺ったり、1階受付に設置した意見箱の投書で対応している。また、運営推進会議の開催を全家族に案内し、参加を要請する取り組みがなされている。	○	家族とのつながりは、法令遵守、説明責任等ホームの運営全般について信頼性と透明性を高める上で重要であることから、運営推進会議と関連づけながら、関わりを深められるよう積極的な働きかけが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理事長、施設長は入居者との馴染みの関係を重視し、必要最小限の異動に止めている。		

外部 評価 No.	自己 評価 No.	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでのカンファレンスの内容が併設施設の各フロアの主任、副主任で構成する会議(月2回)で協議され、更に全体報告会(勉強会、外部研修報告もこの場で)という形で職員の質の向上を図る仕組みづくりがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、定期的の実施される研修会に参加し、意見交換や情報交換が行われている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては事前調査や本人への説明を充分行うとともに、入居後は混乱なく馴染めるよう職員や他の利用者との関わりを多く持ち、打ち解ける雰囲気づくりに配慮するほか、家族の面会の機会を多くしてもらえよう支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理や味付けを教えてもらったり、入居者の残された能力への気づきを通じて大いに励まされている。また、食事をともしたり、記録時も見守りながら行うなど一緒に過ごすことを大切にしたりがなされている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常の様子や会話等のコミュニケーションまたは家族との関わり、センター方式でのD-1、D-2シートを参考としたカンファレンスで個々の思いや希望等を把握している。	○	センター方式の導入が検討されているので、今後求められる新しい認知症ケアの確立に向けた取り組みの重要性を職員に周知し、実践することが大いに期待される。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員は、日頃から利用者の日常の様子や生活のことを本人に尋ねたり、家族の面会時に希望を把握した上でサービス担当者会議を開き、これらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	他のユニット向けに、それぞれの連絡事項を共有するサービス担当ノートの活用している。モニタリング評価を実施し、3か月に1回のサービス担当者会議を行い、入居者の現状に即した介護計画に見直している。	○	サービス担当者会議への家族の参加は、ホームに任せっきりにならないことだけでなく、適切な計画の見直し等入居者・家族等皆の利益につながるものである。ホームには家族の理解を深め、参加が得られるよう更なる働きかけや工夫に期待したい。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のリハビリ機能、合同レクへの参加、移動散髪の利用、重度化・終末期の支援、精神科への通院支援等法人グループの持っている機能を柔軟に活かした支援がなされている。		

外部 評価 No.	自己 評価 No.	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設を含めた全体での避難訓練を年2回実施している。今年 は、はしご車を導入した本格的な防災訓練を実施したが、地域との 協力支援体制を得るような内容には至っていない。	○	全体訓練では、見落とされがちな細かな配慮すべきことを確認する 上でも、ホーム独自の補助訓練の実施を期待したい。また、地域 からの協力支援体制の整備は、日常的な関わりを深める上でも効果 が期待されることから早期の実現が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、 一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成し、栄養バランスを管理している。 また、便秘対策にもなるお茶を十分に摂取することで、水分確保を 心がけた支援がなされている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、 利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節 感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価でホーム内が殺風景との評価を受け、改善に向け た取り組みがなされ、壁面を活用した手作りカレンダーやその他 様々な掲示物に生活感を引き出す工夫が感じられた。	○	入居者は食堂イス等で思いやりにくつろいでいるが、フロアーが広い ので居室以外にも一人や気の合った者同士が落ち着ける、間仕切 りのある空間の導入の検討が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い 慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	入居者本人、家族と相談し、使い慣れた物の持ち込みのほか過ご しやすい工夫がなされ、その人らしさに配慮した居室が確認でき た。		

※ は、重点項目。

ウエルネス木村(ユニット名:まごころ)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてはフロアに掲示しており、申し送り時に毎日唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	来訪時に目につきやすいよう、フロアに理念を掲示している。	○	広報誌を地域に配布するなど検討していきたい。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	運営推進会議にもっと地域の人にも参加してもらい、相互理解を深めつつ、地域との交流を図りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	運営推進会議にもっと地域の人にも参加してもらい、相互理解を深めつつ、地域との交流を図りたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	今後、交流を深めて、地域の現状を把握した上で取り組みについて検討していきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の低かった項目(レイアウト、入浴回数、理念等)についてカンファレンスで話し合い、改善に取り組んできた。	○	今後も同様に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている。家族や、包括支援センターの職員、民生委員に、外部評価の結果を報告。グループホームのレイアウトをどの様に改善するとよいか、地域の交流をどの様に進めるとよいか相談を持ちかけている。	○	今後も同様に取り組んでいきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外ではほとんど機会がない。	○	今後連携を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	順次研修で学んでいる。当グループホームでは、現在まで必要と思われる利用者はなし。	○	今後も計画的に研修に参加するとともに必要な利用者には支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を設け虐待の防止に努めている。	○	一人ひとりの職員に意識が浸透するよう徹底していきたい。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を元に、十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の仕組みに基づき実施している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月個別で本人の活動の様子(写真)や、連絡事項、健康状態、職員の異動等を記載したグループホーム便りを発行している。又、金銭管理については、施設側の預かりになっている利用者に関して出納帳を作成し、使用状況を毎月家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の仕組みに基づき実施している。施設1F受付にご意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回業務カンファレンスを実施している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に対しての勤務の調整は、必要時には行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなるべく最小限にとどめている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、毎月テーマを決め研修会を実施している。外部研修についても随時参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議、研修等に参加して、意見交換、情報交換を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員一人ひとりと個別面談の機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を行うと共に、職員には資格の取得を奨励している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。専門的なりハビリが必要な利用者で希望があれば、協力病院のハビリの利用を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者となじめる様に、利用者同士の雑談の中に職員が仲介しながら参加して、打ち解けられる雰囲気作りに努めている。又、家族にも面会の機会を多くしてもらったり、馴染みの物を家から持ってきてもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	極力ワークルームにこもらず、利用者と同じテーブルに座り、雑談を交えてカルテに記録を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会をされた場合には、お茶を出してゆっくりしていただけるように心がけている。本人の近況の報告を行い、家族の要望も聞いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅での介護疲れから離れた為か、家族も入所当初より穏やかになっている場合が多く、本人との関係も良くなる場合が多いが、上手くいっていないケースもある。面会の際には、本人の話題に触れ、職員が本人の良き理解者として、家族との架け橋に慣れるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月には、なるべく帰省を家族にお願いしている。又、電話に関しては、特別な事情が無い限り家族や馴染みの人に連絡出来るようになっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が雑談できるよう職員が会話の仲介を行ったり、他の利用者となかなか馴染めない利用者に関しては、職員が関わったりと出来るだけ、孤立しないよう工夫を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要性に応じて心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。困難な場合は、担当の職員を含め、カンファレンスを開き、話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、その情報は、カルテに記載をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに日課計画表、週間計画表をつけて個々の生活の流れを把握するよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。又、家族の面会時等に希望を伺って、担当の職員を含めサービス担当者会議を開き、内容を決定している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はカルテに午前、午後、夜間に分けて記録を行っている。3ヶ月毎にプラン作成の為に担当者会議の他、適時にカンファレンスを行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門的な機能訓練が必要な場合等は、併設施設の専門職に相談を行ったり、本人の希望によっては協力病院で、リハビリを行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望により協力病院に受診に行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	出来ている。(協力病院)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専任の看護師を1名配置している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来ている。(協力病院)		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にての支援をする旨を入居時に確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にての支援をする旨を入居時に確認している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	行っている。本人の情報について関係者と話し合い、生活層等を書面で提供している。	○	今後はセンター方式を活用し、その本人の生活面での情報提供を細かに伝えられるよう検討してゆきたい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護に関する研修の実施や「個人情報保護に関する指針」を定めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者にたいして、命令口調にならないよう「～どちらにしましょうか」などの口調で自己決定の支援に心掛けている。。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重するよう心掛けているが、基本的にはグループホームの日課に沿って1日を過ごしている。	○	できるだけ、個人のペースで1日を過ごせるような工夫をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の要望を聞いて対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事、片付けは一緒にしている	○	一人ひとりの好みを活かされる工夫を考えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的な制限が特にない場合は自分の部屋や、フロアの冷蔵庫を利用しておやつ等を管理して頂き、好きな時に食べて頂いている。医療的な制限がある場合は、預かり、適時本人に渡している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各部屋にトイレがあるため、プライバシーは保たれている。排泄については失禁の有無を確認したり、排泄チェック表を用いて、個別の誘導時間を設定している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に午前中だが、午後に入浴できる日も設定している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた規則正しい生活が送れるよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行っている。女性は家事の当番を決めたり、男性は、棚づくりなどに参加して頂いている。また、春から秋までは畑で野菜を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理して、外出時にお金を渡す場合と、家族から小遣いとして本人に渡して、自己管理している場合がある。自己管理の方の場合は5,000円程度所持している。自己管理のリスクに関しては家族に納得して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出たり散歩等、戸外に出られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や季節により花見など外出の機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な問題がない限りは自由に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が面会をされた場合には、本人の部屋に通し、お茶を出してゆっくりしていただけるよう心掛けている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関する手引き」を職員全員に周知し、ホームのマニュアルとしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はフリーだが、エレベーターは操作ボタンに暗証番号が設定してある。	○	今後、1日のうちに何時間かは暗証番号の解除を出来るように取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に危険な物はワークルームで預かり、使用時に本人に渡している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	大きな事故を予防する目的で、転倒等があった場合ヒヤリハット報告書を作成しカンファレンスで今後の対応を検討し、全職員で情報を共有化できるよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間計画に基づき、研修会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回(内1回は夜間想定)実施している。	○	地域の協力を得られるよう働きかけを行っていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス利用の契約時にリスクに関しての説明を行っている。利用を開始後は、リスクの多い利用者家族の方に関しては報告を行って、対応について相談を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の急変時には看護師に連絡を行い、指示や対応について話し合っている。場合によっては協力病院に速やかに受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が連絡ノートやカルテに通院時の薬の情報を記載しているので、職員は目を通して業務にあつたっている。本人の状態も申し送りで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべくフロアや、施設周辺の散歩を行うように利用者に働きかけている。水分補給も促しており、チェック表で水分量や、排便があったかどうかの確認も全員行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に出来る利用者には声をかけ、不十分と思われる利用者に対しては介助も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成しており、栄養面ではバランスが取れている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設の感染症予防マニュアルに準じて実行されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板の消毒、布巾は頻回に交換を行い、食器洗浄機により衛生管理に努めている。。食材は、新鮮で安全な食材を使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	なるべく親しみが持てるように植物を多く取り入れる等、工夫は随時行っている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間でくつろげるように座椅子を置いたり、共用フロアに本棚を置いたりとくつろげるような工夫を試みている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人と相談の上行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気なるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時、昼食後、おやつの後には換気を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋はバリアフリーでゆとりを持った造りとなっていて、車椅子の利用者でも移動が行いやすくなっている。居室内の床材に転倒時の衝撃を緩和できるクッションシートを敷いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者には、トイレと文字を入れたり、本人の部屋に飾りをつけたりしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物を干したり、プランターに花を植える等活用している。施設の畑もあり、季節の野菜の収穫も行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
V サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して2年、まだまだ改善すべきところは多々ありますが、利用者の方が安全で安心して過ごせる笑顔が絶えない、自分が入りたいと思える、グループホームを目指しています。併設施設の2Fにあるため、家という表現は合わないかもしれませんが、「あたたかで、くつろげるマンション」と言われるように日々職員一同頑張っています。

ウエルネス木村(ユニット名:やすらぎ)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてはフロアに掲示しており、申し送り時に毎日唱和している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪時に目につきやすいよう、フロアに理念を掲示している。	○	広報誌を地域に配布するなど検討していきたい。
	2 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	運営推進会議にもっと地域の人にも参加してもらい、相互理解を深めつつ、地域との交流を図りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	運営推進会議にもっと地域の人にも参加してもらい、相互理解を深めつつ、地域との交流を図りたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	立地が形成途上の新興住宅地のため難しい状況である。	○	今後、交流を深めて、地域の現状を把握した上で取り組みについて検討していきたい。
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の低かった項目(レイアウト、入浴回数、理念等)についてカンファレンスで話し合い、改善に取り組んできた。	○	今後も同様に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている。家族や、包括支援センターの職員、民生委員に、外部評価の結果を報告。グループホームのレイアウトをどの様に改善するとよいか、地域の交流をどの様に進めるとよいか相談を持ちかけている。	○	今後も同様に取り組んでいきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外ではほとんど機会がない。	○	今後連携を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	順次研修で学んでいる。当グループホームでは、現在まで必要と思われる利用者はなし。	○	今後も計画的に研修に参加するとともに必要な利用者には支援していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を設け虐待の防止に努めている。	○	一人ひとりの職員に意識が浸透するよう徹底していきたい。
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を元に、十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の仕組みに基づき実施している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月個別で本人の活動の様子(写真)や、連絡事項、健康状態、職員の異動等を記載したグループホーム便りを発行している。又、金銭管理については、施設側の預かりになっている利用者に関して出納帳を作成し、使用状況を毎月家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決の仕組みに基づき実施している。施設1F受付にご意見箱を設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回業務カンファレンスを実施している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況の変化に対しての勤務の調整は、必要時には行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなるべく最小限にとどめている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、毎月テーマを決め研修会を実施している。外部研修についても随時参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議、研修等に参加して、意見交換、情報交換を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に職員一人ひとりと個別面談の機会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を行うと共に、職員には資格の取得を奨励している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活面での要望を聞いて、なるべく沿えるように取り組んでいる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。専門的なりハビリが必要な利用者で希望があれば、協力病院のハビリの利用を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者となじめる様に、利用者同士の雑談の中に職員が仲介しながら参加して、打ち解けられる雰囲気作りに努めている。又、家族にも面会の機会を多くしてもらったり、馴染みの物を家から持ってきてもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	極力ワークルームにこもらず、利用者と同じテーブルに座り、雑談を交えてカルテに記録を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会をされた場合には、お茶を出してゆっくりしていただけるように心がけている。本人の近況の報告を行い、家族の要望も聞いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅での介護疲れから離れた為か、家族も入所当初より穏やかになっている場合が多く、本人との関係も良くなる場合が多いが、上手くいっていないケースもある。面会の際には、本人の話題に触れ、職員が本人の良き理解者として、家族との架け橋に慣れるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	盆や正月には、なるべく帰省を家族にお願いしている。又、電話に関しては、特別な事情が無い限り家族や馴染みの人に連絡出来るようになっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が雑談できるよう職員が会話の仲介を行ったり、他の利用者となかなか馴染めない利用者に関しては、職員が関わったりと出来るだけ、孤立しないよう工夫を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要性に応じて心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。困難な場合は、担当の職員を含め、カンファレンスを開き、話し合いを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、その情報は、カルテに記載をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに日課計画表、週間計画表をつけて個々の生活の流れを把握するよう努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。又、家族の面会時等に希望を伺って、担当の職員を含めサービス担当者会議を開き、内容を決定している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、現状に即した新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はカルテに午前、午後、夜間に分けて記録を行っている。3ヶ月毎にプラン作成の為に担当者会議の他、適時にカンファレンスを行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門的な機能訓練が必要な場合等は、併設施設の専門職に相談を行ったり、本人の希望によっては協力病院で、リハビリを行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までのところ該当者がいなかったため実施していない。	○	今後、必要に応じて支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望により協力病院に受診に行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	出来ている。(協力病院)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	専任の看護師を1名配置している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来ている。(協力病院)		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にての支援をする旨を入居時に確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期は必要に応じ関連病院、関連施設にての支援をする旨を入居時に確認している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	行っている。本人の情報について関係者と話し合い、生活層等を書面で提供している。	○	今後はセンター方式を活用し、その本人の生活面での情報提供を細かに伝えられるよう検討してゆきたい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシー保護に関する研修の実施や「個人情報保護に関する指針」を定めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者にたいして、命令口調にならないよう「～どちらにしましょうか」などの口調で自己決定の支援に心掛けている。。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを尊重するよう心掛けているが、基本的にはグループホームの日課に沿って1日を過ごしている。	○	できるだけ、個人のペースで1日を過ごせるような工夫をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の要望を聞いて対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事、片付けは一緒にしている	○	一人ひとりの好みを活かされる工夫を考えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的な制限が特がない場合は自分の部屋や、フロアの冷蔵庫を利用しておやつ等を管理して頂き、好きな時に食べて頂いている。医療的な制限がある場合は、預かり、適時本人に渡している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各部屋にトイレがあるため、プライバシーは保たれている。排泄については失禁の有無を確認したり、排泄チェック表を用いて、個別の誘導時間を設定している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に午前中だが、午後に入浴できる日も設定している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人のペースに合わせた規則正しい生活が送れるよう心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行っている。女性は家事の当番を決めたり、男性は、棚づくりなどに参加して頂いている。また、春から秋までは畑で野菜を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理して、外出時にお金を渡す場合と、家族から小遣いとして本人に渡して、自己管理している場合がある。自己管理の方の場合は5,000円程度所持している。自己管理のリスクに関しては家族に納得して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出たり散歩等、戸外に出られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や季節により花見など外出の機会を設けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な問題がない限りは自由に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が面会をされた場合には、本人の部屋に通し、お茶を出してゆっくりしていただけるよう心掛けている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束に関する手引き」を職員全員に周知し、ホームのマニュアルとしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はフリーだが、エレベーターは操作ボタンに暗証番号が設定してある。	○	今後、1日のうちに何時間かは暗証番号の解除を出来るように取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に危険な物はワークルームで預かり、使用時に本人に渡している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	大きな事故を予防する目的で、転倒等があった場合ヒヤリハット報告書を作成しカンファレンスで今後の対応を検討し、全職員で情報を共有化できるよう取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間計画に基づき、研修会を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回(内1回は夜間想定)実施している。	○	地域の協力を得られるよう働きかけを行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	サービス利用の契約時にリスクに関しての説明を行っている。利用を開始後は、リスクの多い利用者家族の方に関しては報告を行って、対応について相談を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の急変時には看護師に連絡を行い、指示や対応について話し合っている。場合によっては協力病院に速やかに受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が連絡ノートやカルテに通院時の薬の情報を記載しているので、職員は目を通して業務にあつたっている。本人の状態も申し送りで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべくフロアや、施設周辺の散歩を行うように利用者に働きかけている。水分補給も促しており、チェック表で水分量や、排便があったかどうかの確認も全員行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に出来る利用者には声をかけ、不十分と思われる利用者に対しては介助も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成しており、栄養面ではバランスが取れている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設の感染症予防マニュアルに準じて実行されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板の消毒、布巾は頻回に交換を行い、食器洗浄機により衛生管理に努めている。。食材は、新鮮で安全な食材を使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	なるべく親しみが持てるように植物を多く取り入れる等、工夫は随時行っている。		
81	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。		
82	○共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間でくつろげるように座椅子を置いたり、共用フロアに本棚を置いたりたくつろげるような工夫を試みている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人と相談の上行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気なるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時、昼食後、おやつの後には換気を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋はバリアフリーでゆとりを持った造りとなっていて、車椅子の利用者でも移動が行いやすくなっている。居室内の床材に転倒時の衝撃を緩和できるクッションシートを敷いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者には、トイレと文字を入れたり、本人の部屋に飾りをつけたりしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物を干したり、プランターに花を植える等活用している。施設の畑もあり、季節の野菜の収穫も行っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
V サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して2年、まだまだ改善すべきところは多々ありますが、利用者の方が安全で安心して過ごせる笑顔が絶えない、自分が入りたいと思える、グループホームを目指しています。併設施設の2Fにあるため、家という表現は合わないかもしれませんが、「あたたかで、くつろげるマンション」と言われるように日々職員一同頑張っています。